

愛知県立名古屋南高等学校吹奏楽部

心に響け、名南サウンド!

愛知県立名古屋南高等学校吹奏楽部は過去19年間で数々の賞を獲得し、今年元日にはアメリカ・カリフォルニア州の「ローズ・パレード」にも招待されました。

部員たちはいま、秋の全国大会出場を目指し、熱く厳しい練習に励んでいます。



加藤 眞先生
名南の吹奏楽の歴史そのもの、19年前からメインの顧問を務める。「今年の名南は大人しいけれど、潜在する力が一大会ごとに伸びていくはず。ご期待ください」

悲願の全国大会に向けて 進め、名南吹奏楽部!

全国大会に向けて、し烈でドラマチックな争いを繰り広げる高校生。それはスポーツでも吹奏楽でも変わりません。吹奏楽は年々レベルが上がり、豊かな音楽性と高い技量をもつ高校が多くあります。南区から全国大会を目指すのが「愛知県立名古屋南高等学校吹奏楽部」(以下名南)。部員数は総勢89人で、吹奏楽とマーチング両部門での出場をかけて、猛練習しています。吹奏楽では55人のA編成の部に出場。各予選に臨むメンバーを絞り込むため、オーディション

ンを行います。顧問を務める加藤眞先生は「例年はシード校として県大会までは無条件で出場できますが、今年はシード権がないため名古屋地区大会から県大会へ確実に駒を進めなければなりません」と語ります。県大会でも厳しい戦いが続きます。東海大会A編成の部に出場できるのは、次の大会である県代表選考会まで残った14校のうち、6位以内の高校。7位から9位までの3校は35人のB編成で東海大会に出場できますが、全国大会への道は絶たれます。「全国大会へ進むためにも選考会をA編成代表で突破する」と加藤先生と部員たちは一致団結しています。

東海大会には、愛知・岐阜・三重・静岡・長野の5県20校が出場し、全国大会への切符をつかめるのは、そのうち3校だけ。「吹奏楽の甲子園」といわれる全国大会のレベルの高さや、出場までどれだけ困難なことかが想像できます。

名南はこれまで東海大会出場を決めた11回のうち8回、A編成の部での出場を果たしています。しかし、残念ながら結果は銀賞受賞にとどまり、全国大会目前で何度も涙をのんできました。その悔しさをバネに「今年こそ必ず悲願の金賞を獲得!」と部員たちは士気を高めています。

成長も感動もいっぱい! 魅了されるマーチング

名南のマーチングは平成14年からスタート。過去4回、全国大会に進出しています。「音が荒れると危惧し、マーチングの導入に消極的な学校もありますが、マーチングが名南にもたらした影響や効果は大きい。控えめな子でも演技や演奏を魅力的に見せよう、聴かせようとするようになりました」と加藤先生。音程の違いなどはわからなくても、歩幅や立ち位置のずれ、動作が違っていることは音楽の能力とは関係なく注意できます。お互いに声を掛け合えるようになり、演奏面でも生徒同士で注意し合える雰囲気をつくることにつながったといいます。

自分の殻を打ち破ってほしくて始めたのですが、めざましく成長してうれしかったですね」と加藤先生は話します。特化した演奏活動を始めたことで、生徒たちも自分たちにもこれだけのことができる」という自信がついたそうです。「ここで得た自信は卒業後も力になってくれるはず」といい、「私にマーチングの知識があまりなかったことも幸いしました。生徒たちが自主的に動いてくれた。頼っていたら、なんとかしらうと思つたのでしょうか。一生懸命でしたよ」と、笑います。

元日には、世界最大級のパレード「ローズパレード」に参加。全長9キロの長い道のりを演奏しながら行進するのは相当な持久力が必要とします。全員ゴールができるのはもちろん、自分たちの演奏が海外で受け入れられるの不安で緊張したそうです。しかし、スタートするやいなや観衆から声援や拍手が送られ、一緒に踊り出す人も。体で音楽を楽しむ人々の姿や笑顔にいつしか緊張もほぐれ、部員たちも笑顔で思いこめた演奏や演技ができました。また、一番の見せ場では、いままでに聞いたことがない大歓声が沸き上がり、「人々の心を捉えた」と実感できた。大観衆と一体となってパレードを楽しめたことに感動した。音楽を楽しむことの大切さを知ったことが一番の収穫。アメリカでの経験

は一生忘れることのないでしょう」と全員心に深く刻まれたようです。この経験と感動が名南サウンドの音楽性をさらに豊かにして、4月の定期演奏会も大成功を収めました。

吹奏楽部は、1年を通じて本番が多く忙しかったため、体力や精神力が必要。脱落者が出ることもあるそう。加藤先生は「仲間間で支え合い、高め合つてほしい。その関わりから自分を見つめることができ。将来、苦楽を共にした仲間や思い出は自分の支えや心の糧になります」と話します。

名南では代々演奏会のアンコール曲に必ず「テキーラ」を演奏。とても陽気な曲なのに、OBたちは笑いながら涙を流すそう。「いろんな思いがよみがえるのでしょね。そんな気持ちをご子たちもいつか感じるでしょう」と愛情のこもった視線を送りました。



取材のお礼にと「テキーラ」を演奏してくれた。演奏しながら立つ、座る、楽器を揺らす、ステップを踏むなど動きが多彩。最後は全員で「テキーラ!」を叫んでフィニッシュ。鳥肌が立ちました



平成24年、全日本マーチング大会ではハートのフォーメーションを描いた。全員が笑顔で演奏と演技を行います



「心に響け、名南サウンド!」部員たちの合言葉。演奏にのぞむ姿勢やあいさつも礼儀正しく、素直な心が音になって伝わってきます

「応援しよう!」
名南吹奏楽部
全日本吹奏楽コンクール 名古屋地区大会
日時:7/22(火)・23(水)
会場:日本特殊陶業市民会館
全日本マーチングコンテスト県大会
日時:9/15(祝・月)
会場:日本ガイシホール
名古屋南高等学校
名古屋南区東又兵衛町5-1-11
052-613-0001



3年前部長 大垣麻友さん
チューバ担当

「大きな楽器で移動が大変ですが、みんなが力を貸してくれる。仲が良すぎて緊張感がないので、いい意味の緊張感を作っています」



2年前部長 竹本ひかりさん
サクソ担当

「連絡係や本番当日のスケジュールなどを担当。音や演奏面の細やかさに通じると、通常清掃に加えて部活としての清掃も行っています」



3年前部長 岩田ひかりさん
トロンボーン担当 マーチング指揮

「敬礼での私の笑顔が部員だけだけでなく会場のムードも変えると思っています。吹奏楽コンクールでも全国へ」と瞳を輝かせます



3年前部長 田崎桜さん
ファゴット担当

「ソロがある楽曲で選ばれなかったことは悔しい思い出。みんな真剣だから強い口調で言いあうこともあるけれど、みんなでフォローします」



2年前部長 高麗美奈子さん
フルート担当

「部の運営は2年生が主体で演奏会のプログラム協賛も自分たちで集めます。マーチングの基礎練習が校内できるように工夫しています」